

北斗句会 自薦三句 (令和五年)

〈五十音順〉

御 慶 石田 きよし

仕舞ひ風呂の妻に足したる柚子ふたつ
庭に来る鳥に御慶を申し上ぐ
幼子を立たせるやうに茄子を植ふ

チベツト 大崎 石州

チベツトや鳥葬あとのうそ寒き
崑崙の無分別なる秋ひでり
タクラマカン沙漠に独り月の友

クラス会 太田 黒 幸 風

花に酔ひ話に酔ひしクラス会
四つ割の白菜並ぶ物価高
水漬をすする老将背は直に



北斗句会 自薦三句 (令和五年)

〈五十音順〉

微 風 大 森 康 正

微風に会釈を返す犬ふぐり

鶺鴒や古代の影を炙り出し

音かろく転ぶ落葉やビルの谷

訃 報 川 崎 き づ ー

春の宵ひとり静かに緑酒かな

行く春や友の訃報に驚愕す

柿若葉妻とふたりの食に添へ

花 桐 竹 内 雲 泉

今朝の秋食器を洗ふ水にふと

戦乱の世の行く末や初日の出

花桐や余命の中に生きてをり



北斗句会 自薦三句 (令和五年)

〈五十音順〉

歩き神 田中 資凡

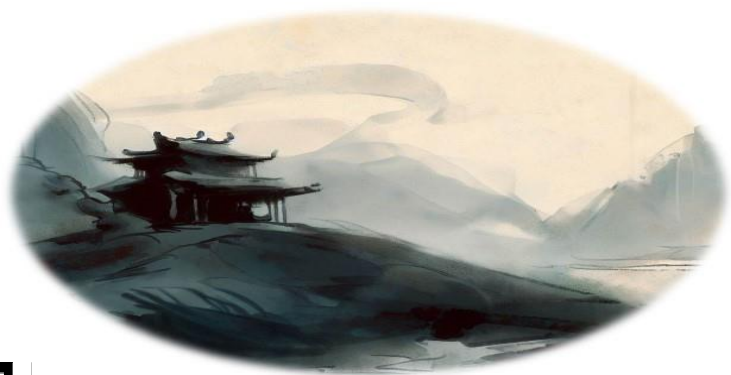
理事会の懸案決議涼あらた
体育の日わが足腰の声を聴く
春なれや足の裏なる歩き神

蛇 苺 長池 豆陽

戦争の遺構の路や蛇苺
楔打つ鋏の響きや空高し
退院や潜る蒲団の日の匂ひ

光 堂 藤田 紀 潮

球春やVの雄叫びマイアミに
若葉風古刹の奥の能楽堂
万緑や鞘に鎮もる光堂



北斗句会 自薦三句 (令和五年)

〈五十音順〉

野 趣 宮下 ひかる

大根を直に噛りて野趣ずばり

振向かば何やらゆかし石路の花

黄水仙道案内になりにつけり

二 人 森田 光彦

起重機の影動かざる炎暑かな

真つ直ぐに家路を二人冬の暮

子や孫の膳を並ぶる妻の春

